

CIRSE 2011 報告

小金丸雅道

9 月ミュンヘン・ドイツで開催された Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (CIRSE) に参加しました。ミュンヘンはドイツバイエルン州の南部に位置するヨーロッパ有数の世界都市です。今年も 2 演題を採択してくれました。

IVR 国際学会の中で CIRSE は、US の SIR を抜いて最も参加者の多い学会です。教育関連の演題が多く、とても勉強になる学会だと思います。



～会場の前にて撮影～

まだ日本では使えない塞栓ビーズその他。

肝腫瘍セッションでは、イリノテカン溶出性ビーズである DEBIRI の成績が面白いと感じました。論文に引用した報告でもあり理解し易かったです。徐々に薬剤を溶出し、24 時間後も高い組織内濃度を持続し高腫瘍壊死率を得ることができます。大腸癌肝転移に対する 2 年間のランダム化比較試験の成績では、

FOLFIRI と、DEBIRI による TACE を 2 回受ける群と比較しています。患者の多くが既に FOLFOX をはじめとする多くの標準治療を既に受けていても、奏効率 68.6%、生存期間中央値 23 ヶ月、無進行生存期間 7 ヶ月と、FOLFIRI より有意に優れていました。さらに、進行までの期間と QOL も有意に優れおり、肝外再発までの期間も有意に延長しています。今後この領域もまた IVR の再来が伺えますね。



～展示会場～

Bioactive coil って。

コイル塞栓では、ぼちぼち腹部領域にも浸透してきた bioactive coil が注目されている印象でした。Hydrocoil は医局でも実際に生理食塩水につけてみて触った経験がありますが、コイル周囲の生体ポリマーが膨張して塞栓力を高めます。簡単にまとめると血液に触れるとコイルが勝手に膨張するんです。最近 JVIR や CVIR などの IVR 系 journal を見ているとやたら Yttrium-90 を使用した radioembolization の報告が目立ちます（これも日本では未承認）。欧米では副作用防止目的で GDA 塞栓にも使われてきているようですが、発表では一本のみで塞栓できるとか。

欧州の interventionalist はパワーがある。

US は FDA でがっちり縛られているため、対照的にヨーロッパ群は元気だとか。CIRSE もでかくなりすぎた学会だそうですが、これからももっと発展してほしいと思います。展示ブースにはビール、スパークリングワイン飲み放題、ソーセージ食べ放題。デザート・コーヒー付き。BMW 試乗・販売まであり、人だかりで、まるでお祭り騒ぎでした。ブースを通らないと会場に入れない構造もニクいです。



これも展示の一つ。乗れるし動くんです（モニター付き）



ドイツ・ミュンヘンといえば。ビール。持ってるのが 1L ジョッキ

ちょっと学会休憩編：ビール好きのボク。世界最大のビール祭り・オクトバーフェストの開催地でもあるミュンヘン。残念ながら（当然か）、学会期間と重なっていませんでしたが、学会期間終了と同時に多くの人がこの地を訪れたでしょう。イングリッシュガーデンや HB ハウス、シュナイダーバイスでビールをガッツリ飲みました。一杯の標準ジョッキは 1L なので、居酒屋生ビール 2 倍以上の量が一回ででてきます。ドイツ人は昼も夜もテラスで飲むのが好きみたいです。ボクは体育館なみのホールで飲むのも好きでしたが。ソーセージはやっぱり皮剥いて食べる白ソーセージ。昼には売り切れるから、午前中から飲まないといけなくなりますね。シュバイネハクセは豚脚のロースト。皮がパリパリでビールにとっても合います。



HB ビアホール：ドイツ民謡演奏を聞きながら

できればまた参加したいと思います。